

博士課程教育リーディングプログラム 平成25年度プログラム実施状況報告書

| | | | |
|--------|-----------------------------|----------------|------|
| 採択年度 | 平成24年度 | | |
| 申請大学名 | 長崎大学 | 申請大学長名 | 片峰 茂 |
| 申請類型 | オンリーワン型 | プログラム責任者名 | 調 漸 |
| 整理番号 | 005 | プログラムコーディネーター名 | 森田公一 |
| プログラム名 | 熱帯病・新興感染症制御グローバルリーダー育成プログラム | | |

<プログラム進捗状況概要>

1. プログラムの目的・大学の改革構想

熱帯地域を中心とした開発途上国には世界人口の8割を超える人々が生活しており、今なおマラリア、デング熱、コレラ、トリパノゾーマ症などの熱帯特有の感染症により多数の患者が発生している。一方、先進国と称される温帯に位置する国々も国外からもたらされる新興感染症により、重大な健康被害、経済的損失、社会不安を蒙っている。西ナイル熱の新大陸への伝搬、重症呼吸器症候群（SARS）の出現、新型インフルエンザパンデミックなど、その事例は記憶に新たなところである。これら熱帯病・新興感染症への迅速かつ適切な対応をとり、国民ならびに世界の人々の健康を守るには国境を越えて地球全体の視点からの協調的で適切な対応が必要とされる。従って国、地域、地球規模のさまざまなレベルにおいて、熱帯病・新興感染症対策分野の教育・研究開発の推進、あるいは長期的な視野に立った疾病対策の立案、計画、実行が求められる。また、同時に新興感染症による国際感染症危機に際しては科学的根拠に基づいた迅速な対応を主導できる優れたリーダーシップを持った国際的人材の育成強化が急務である。

この様なグローバルリーダーに求められる資質には次の項目が必要である。

1. 病原体についての幅広い基礎知識を有すること
2. 感染症診断についての理論と実践を高いレベルで理解していること
3. 感染症治療と予防についての先進の知識を有すること
4. 感染症疫学の理論と実践の高いレベルで理解していること
5. 先進国のみならず開発途上国の保健衛生の現状に精通していること
6. 国際的な感染症対策の枠組みやシステムとその機能を理解していること
7. 国際感染症危機管理に関する知識を有していること
8. 対策事業を効果的に実施できるマネジメント能力を有していること
9. グローバル化する経済、地球気候変動、人口問題などの医学以外の関連知識を有すること
10. 国際的発信力と調整力を担保する英語によるコミュニケーション能力を有すること

11. 異文化を理解し対応する能力を有すること
12. 高い倫理感を有していること

以上のような認識のもと、本プログラムでは本学の大学院医歯薬学総合研究科・新興感染症病態制御学系専攻に「熱帯病・新興感染症制御グローバルリーダー育成プログラム」を設置し、「熱帯に蔓延する感染症および国際的に脅威となる新興感染症について幅広い知識と技術及びグローバルな俯瞰力を備え、教育研究の推進と疾病制御の実践においてリーダーシップを発揮できる国際的人材を育成すること」を目的とする。

2. プログラムの進捗状況

- 1) プログラム第1期生として、平成25年4月入学生（9名）の受入れ、10月入学生の選抜及び（6名）受入れを行い、それに伴いコースワーク・ラボローテーションの運営を行った。また、第2期生として、1月に平成26年4月入学生の選抜試験を実施した。
- 2) 分野横断的な専門教員の追加採用及び全学生へのメンターの割り当てを行った。
- 3) プログラム運営の向上を図るため、国内外の国際機関、省庁、NGO等から外部評価委員、連携教育研究機関協力者を招き、第2回外部有識者会議を開催した。
- 4) 海外教育研究拠点等における研修の充実化及び連携促進のため、受け入れ機関と教育研究プログラムに関する打合せを行い、環境整備を開始した。
- 5) 国際シンポジウム及び市民シンポジウムを開催し、国際的に活躍している専門家による学生への教育を実施した。また、市民への本プログラムの周知を図るとともに、地域への貢献を行った。
- 6) パーソナルポートフォリオ（以下 e-Portfolioシステム）の整備を完了し、学生、教員、メンターと意見交流の場を設け、また、授業への活用を開始した。
- 7) 視聴システムの整備を完了し、カリキュラム上の講義をデジタルアーカイブとして記録を開始した。